

呼吸器系疾患による緊急退所の減少に向けた取り組み

～肺炎・誤嚥性肺炎の予防に必要な対応とケア～

介護老人保健施設 アゼリア

発表者：田口真澄

共同研究者：蜂谷耕士・渡辺徹

■はじめに

- ・ 重傷事故により緊急退所に至る事象が多く発生
- ・ これまで再発防止や事故の発生予防の強化を実施
- ・ 肺炎などによる退所者数の減少に向けた取り組みは未実施

■ 目的

「肺炎及び誤嚥性肺炎による緊急退所件数を減少させる」

■活動内容

1. 肺炎球菌ワクチンの接種を推奨
2. 「肺炎及び誤嚥性肺炎予防」「口腔ケア」の研修を実施
3. 肺炎等の既往歴のある方のカルテにテープを貼付
4. 発症リスクの高い方の処遇に関する留意点について設定

1. 肺炎球菌ワクチンの接種を推奨

65歳からの肺炎予防

肺炎は日本人の死因の
第3位¹⁾



肺炎による死亡者の
約95%は
65歳以上¹⁾



1)厚生労働省、人口動態統計（確定数）

肺炎は発症後に
急激に症状が進むこともある²⁾



以下に該当する方は、肺炎球菌ワクチンの接種をおすすめします。

- ① 65歳以上の方
- ② 施設に入所されている方
- ③ 慢性の持病をお持ちの方（呼吸器疾患・糖尿病・慢性心不全など）

病院での接種が難しい方は当施設でも有料（8640円）で、

接種することが可能です。1回の接種で5年間有効です。

ご希望の方は受付にお声かけください。

※市区町村からワクチン接種のご案内のハガキが届いている方は
指定の病院で受ける事が出来ます。

特徴

効果

費用

どうして肺炎になるの？

からだの抵抗力(免疫力)が弱まる



肺炎を聞くと、「風邪をこじらせたとかかる」「冬に多い病気だろう」と

思っている方も多いと思いますが、

肺炎の原因となる細菌やウイルスなどが、からだに入り込んで起こる別の病気です。

例えば、発熱、咳や痰、息苦しさや胸の痛みなどが表れられます。

肺炎の原因となる細菌やウイルスは人のからだや日常生活の場には存在しています。

からだの抵抗力(免疫力)が弱まったときなどに感染を起こしやすく、

普段、菌にさらしている有ても、抗力の低下や、体調不良などをきっかけに、

感染する可能性のある病気です。

肺炎は、症状が重くなると、命に関わる危険性もあります。

また、日常でかかる肺炎の原因菌で最も多いのは、「肺炎球菌」といわれています。

この肺炎の予防法を防ぐためにも、肺炎球菌ワクチンの接種がおすすめです。

2. 「肺炎及び誤嚥性肺炎予防」「口腔ケア」の研修を実施

老化にともなう呼吸器の病気と症状

はじめに

お年寄りの呼吸器は、呼吸機能が低下したり、横隔膜などの呼吸筋の働きが低下したりするなど、加齢による影響を大きく受けます。以下のものは特に多くみられる呼吸器疾患となっています。

肺炎

肺炎は、お年寄りの死因のなかでは、現在も高順位にあげられています。

肺炎には、風邪から肺炎になる市中肺炎、がんなどの重い病気の治療中に肺炎を併発する院内肺炎、誤嚥によって起こる誤嚥性肺炎に分けられます。

高齢であればあるほど、栄養状態などの全身状態が悪ければ悪いほど、他に重い病気を伴っているほど、重傷率、死亡率は高くなります。

1) 原因

原因となる菌が肺内に大量に入り込み、身体の抵抗力が弱っていて、菌をうまく殺菌出来ない時に発症します。

2) 検査と診断

肺炎は、発熱や呼吸器症状（たん、せき、呼吸苦）が特徴ですが、高齢の場合は、発熱や呼吸器症状が乏しいことがあります。かわりに、倦怠感、食欲低下、意識レベルの低下が初期症状で見られることがあります。高齢者では呼吸数の増加（25回/分）、脈が速い（100回/分）が初期サインになることがあります。胸部×線写真では影がみられますが、脱水や他の肺疾患があると影がみられないことがあります。血液検査では白血球、CRPの増加などの炎症反応がみられます。

3) 治療

抗生物質を使用して治療します。入院治療が必要となる場合は、脱水症状がみられたり、酸素吸入が必要なとき、別の重い病気を併発した場合が対象となることが多いです。

肺炎

○ 肺炎って？

肺炎は、多様な原因によって、肺が炎症を起こした状態をいいます。胸部X線検査を行うと、肺に白い陰が映るものです。肺炎の種類も数多くあり、それぞれにあった治療が行われます。

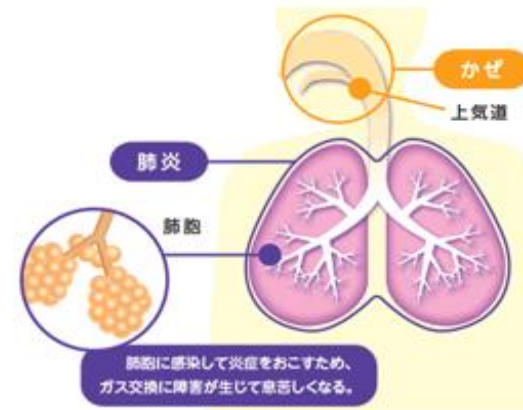
肺炎は、かぜと間違えやすい病気！

主な症状は、せき、発熱、たんなど、かぜの症状と似ているため、肺炎は「かぜをこじらせたもの」と考えられがちですが、肺炎と

かぜはちがいます。肺炎の原因は細菌やウイルスなどの病原体が、酸素と二酸化炭素のガスの交換を行う肺胞に感染して炎症を起こします。

このガス交換に障害が生じると、息切れ、黄色～緑色や赤さび色のたん、38度以上の高熱などの症状が長く続き、一時的なかぜよりも症状が重くなります。

● かぜと肺炎は、ちがいます。

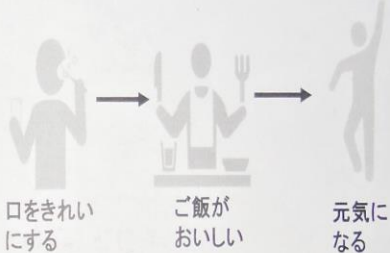


2. 「肺炎及び誤嚥性肺炎予防」「口腔ケア」の研修を実施

口腔ケア講座

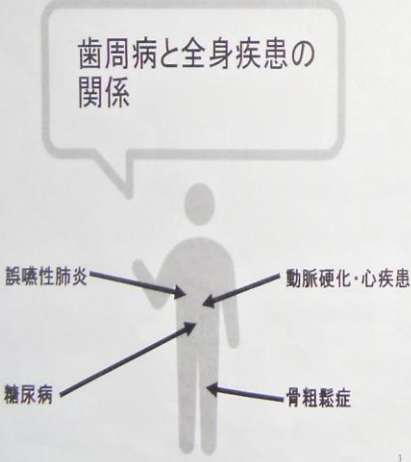
滝本歯科医院住診部
武藤篤夫

口腔ケアの意義



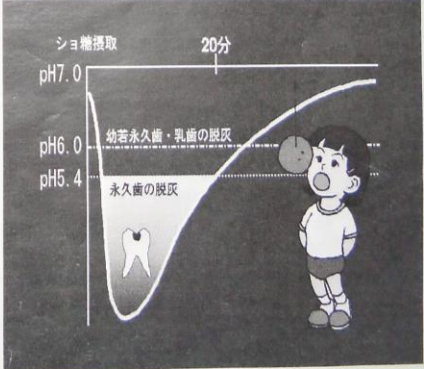
口をきれいにする → ご飯がおいしい → 元気になる

歯周病と全身疾患の関係



誤嚥性肺炎、糖尿病、骨粗鬆症、動脈硬化・心疾患

ステファンカーブ



ショ糖摂取 20分


pH 7.0
pH 6.0
pH 5.4

幼若永久歯・乳歯の脱灰
永久歯の脱灰

入れ歯の手入れについて


- ブラシできれいに磨く
- 週に2~3回は入れ歯洗浄剤につける
- 夜寝るときは必ず外す
- 外している時は必ず水につける
- 入れ歯安定剤は応急処置
- 入れ歯が汚れていることが痛みの原因になる

正常な嚥下



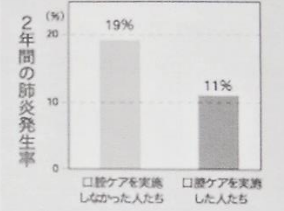
えんげ下

誤嚥性肺炎



えんげ誤

口腔ケアと誤嚥性肺炎



口腔ケアの実施状況	2年間の肺炎発生率 (%)
口腔ケアを実施しなかった人たち	19%
口腔ケアを実施した人たち	11%

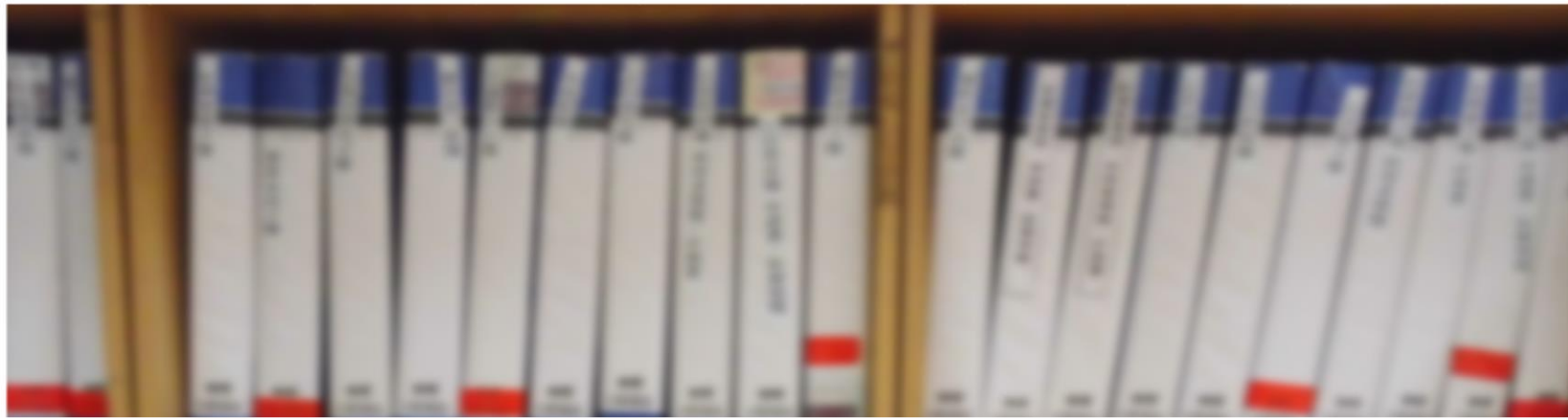
誤嚥性肺炎を予防するために

- ・嗅覚刺激
- ・口腔ケア
- ・メリハリのある食事
- ・咳反射、嚥下反射改善薬
- ・胃食道逆流対策

口腔ケアの目的

口腔ケアは
口腔内の状態を知り
全身の健康維持を
目的としている

3. 肺炎等の既往歴のある方を識別



看護師が既往歴を確認し、個々のカルテに貼付



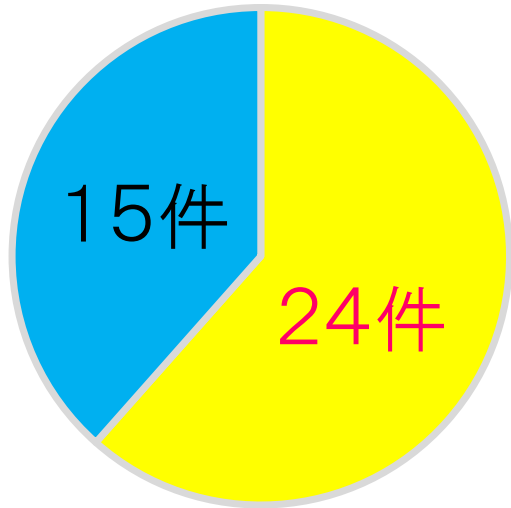
4. 発症リスクの高い方の処遇に関する留意点について設定

- 口腔ケアを食事前後に実施
- 食事摂取時の良姿勢を保持する
- 食事前に嚥下体操の実施
- 臥床対応は食後の約1時間後

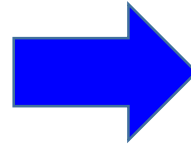
■ 結果

肺炎などによる緊急退所が17件減少！

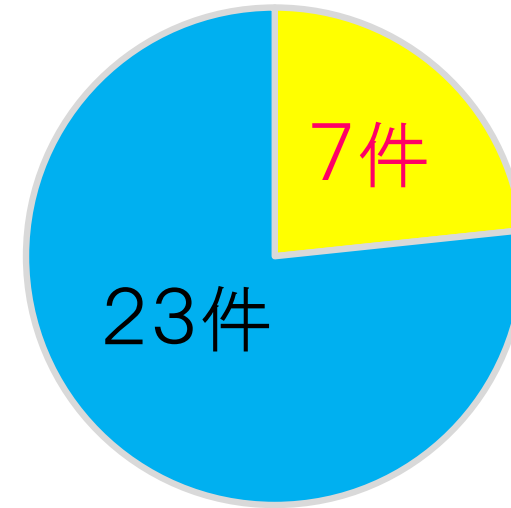
2016年度：計39件



- 肺炎・誤嚥性肺炎
- その他疾患



2017年度：計30件



- 肺炎・誤嚥性肺炎
- その他疾患

■肺炎及び誤嚥性肺炎を除く緊急退所の理由

骨折・脳梗塞・イレウス・痙攣発作

心肺停止・下血・蜂窩織炎・褥瘡治療等

■結果

2017年 5月時点 = ワクチン接種者数：18名



2018年 5月時点 = ワクチン接種者数：39名

入所者の約1/3が接種済み

■まとめ・課題

- 緊急退所件数が17件減少し、一定の効果が得られた
→感染症シーズンに偏らないための仕組みが必要
- 肺炎球菌ワクチンの認知度が低い現状にある
→接種状況の確認方法や管理方法を検討していく必要性

■まとめ・課題

- 研修を通してケアの**処遇向上**にも**効果**をもたらした
→継続的に実施していくための**計画性**
- **重傷事故**や**肺炎**を除く**緊急退所**に**焦点**をあてる
→自分たちが今できることを施設全体で**取り組む**

ご清聴ありがとうございました

アゼリア